

# 令和4年度春の特別ラン展におけるテーマ展示「青いラン特集」について

上野明楽・島田有紀子

2023年2月18日(土)から2月26日(日)まで開催された春の特別ラン展の空中デッキで実施したテーマ展示について報告する。

青色の花を咲かせるランは野生種では少なく、貴重な花とされている。この度遺伝子組み換えに成功した青色のコチョウラン「ブルージーン」が2023年から一般販売されるようになったことから、このブルージーンを導入・展示の目玉にしようと考え、それに合わせてテーマ展示を青色のラン特集にした。また、色合いのテーマなので、ランの色にまつわる用語の解説も合わせて行った。

## 展示花の紹介

### 奇跡の青色コチョウラン ブルージーン

石原産業株式会社が10年以上の歳月をかけ、ツクサの遺伝子をコチョウランに入れ込むことで、極めて濃い青色を発現させることに成功した。隔離の制限が無くなったため、一般流通されるようになり、誰もが気軽に育てることができるようになった。本種の解説文と、青色の遺伝子を抽出したツクサを展示した(写真1)。



写真1 ブルージーンの展示

### ランの色にまつわる展示

ランの変種や、種小名が色合いの意味を持つもの、珍しい色合いのランなどを展示した。また、解説パネルを用意し、普段は知る機会の少ない

用語(色素の抜けた色を表すアルバム、黄色を表すオウレアなど)を添えて掲示した(写真2,3)。



写真2 ランの色についての展示



写真3 スロープでのテーマ展示

カトレア属では、カトレア ワルケリアナ(*C.walkeriana*)の基本種となるピンク色、唇弁に色が残り、その他は白色となるセミアルバ、花全体が藤色になるセルレアの、同じ種でありながら色彩の異なる3株を展示した。また、黒色にマキシラリア シュンケアナ(*Maxillaria schunkeana*)、人工交配種のフレッドクラークアラ‘アフターダーク’(*Fredclareara*‘After Dark’)、白色にアングレカム レオニス(*Angraecum leonis*)、ピンク色にオンシディウム ロゼオイデス(*Oncidium roseoides*)黄色にパフィオペディルム コンコロール(*Paphiopedilum concolor*)赤色にレンアンセラ コッキネア(*Renanthera coccinea*)オレンジ色にグアリアンテ アウランティアカ(*Guarianthe aurantiaca*)を展示した。

### デンドロビウム属(*Dendrobium*)

本属の中には、青色の花が比較的多く、本園が保有しているものを展示した。

(*Den. parvulum*, *Den. victoriae-reginae*, *Den. violaceum*)の3種類 計5株を展示した。いず

れもニューギニアの高地に自生するランであり、栽培には夏場の冷涼な環境が必要なため、栽培する施設に限られる貴重な種類である。

#### カトレア属 (*Cattleya*)

本属には、趣味家の間でセルレア（青の意味）と呼ばれている種が多くあるが、2月に開花している株が少ないため、今回はワルケリアナ種 (*C. walkeriana*) とカトレアの交配種ミニパープル (*C. Mini purple*) の2種類6株を展示した。

#### バンダ属 (*Vanda*)

本属は青花が比較的多いが、夏頃に咲くものが多いため用意できる株が少なかった。今回は原種 (*V. coerulescens*) と交配種 (*Vandachostylis Charm 'Blue Star'*) を計6株展示した(写真4)。



写真4 *Vanda coerulescens* の展示

#### テリミトラ属 (*Thelymitra*)

本属はオーストラリアとその周辺に生育する地生ランであり、ラン科植物の中でも特に青色の種が多いことで知られている。2月から3月にかけて開花するため、昨年度から展示している。本種は英語で太陽のラン (*Sun orchid*) と呼ばれており、太陽の当たる時間にしか開花しないため、曇りや雨の日は展示しても花が開かないことがあった(写真5)。

#### ジゴペタラム属 (*Zygopetalum*)

本属は濃い紫色の発色で、テーマ展示に合う花であるが、栽培している生産者が減ってきており、流通量が少なくなっているランである。今回は交配種 (*Z. Redvale 'Pretty Ann'*) を6株展示した(写真6)。



写真5 テリミトラ属の展示



写真6 ジゴペタラム属の展示

#### アッペンディクラ属 (*Appendicula*)

本属は非常に小さい花をつけ、基本的には白色なのであまり目立たないが、極めて濃い青色を発色するマリンダンゲンシス種 (*App. malindangensis*) があり、開花中の株を用意できたことから展示をした。

#### 所感

青いランはラン科植物全体でも少なく、冬季に開花する種は限られているため、収集は困難であった。

また、テリミトラ属の開花は晴れた日と限られており、すべての来園者に見てもらえなかった点が改善点である。ライトを照射することで曇りの日でも開花するか試してみる必要がある。来園者には普段目にする機会の少ない青いランを見てもらい、楽しんでもらえたように感じた。これからもランの魅力伝えるために、普段から何が来園者にとって新鮮な発見になるのかを考えていきたい。今後も春の特別ラン展のテーマ展示を通じて、市民により良い学びの場や憩いの場を提供していきたい。